

南京に友好の柔道場

山下泰裕さんら協力、開館へ着々



日中友好柔道館に改装される予定の柔道場。右が山下氏＝NPO法人「柔道教育ソリダリティー」提供

中国の南京で、日中友好の懸け橋となる柔道場の整備計画が進められている。来年にも着工される見通しで、協力しているロサンゼルス五輪金メダリストの山下泰裕さんは「(戦争などの)過去の歴史は人々の心に重くのしかかっているが、柔道を通して日中の交流を深めていければ」と期待している。

山下さんは積極的に日中の交流活動に取り組んでいる。昨年11月には山下さんが日中の仲を取り持って日本の外務省がほぼ全額を負担した柔道館が青島に開館した。この動きを知った南京市政府や南京柔道連盟から「ぜひ南京にもつくりたい」と要望があったという。

計画では日本の外務省の費用で南京市内にある柔道場を改装し、日中友好柔道館として衣替える。山下さんは先

月、南京市を訪れて関係者と打ち合わせを行い、現場を視察。南京大学では柔道の心と国際交流について講演した。

開館後は一般市民にも開放される予定という。「南京の人たちには、未来に向けて日本と活発に交流をしたいという熱意がある。過去を忘れることはできないが、交流を進めることでお互いの等身大の姿が見えてくる」と山下さんは話している。